

<p>頭 本 課 長 頭 本 課 長</p> <p>松 田 課 長</p>	<p>次回の審議会の内容によっては変わるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校区審議会委員の任期は。 ・ 来年 11 月まで 2 年間。 ・ 場所については資料提供が必要になると思うが、ハード面など教育委員会で作成しないといけない。 ・ 審議会で次回の必要資料を聞いて、求められたものを準備している。 <p>今回は高校との一貫校について求められているが、無い場合もある。求められたらできるだけ準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校の方向性だが、直ぐにすべきだという委員と、時間をかけてすべきという委員がある。 ・ 委員の欠席はあったか。 ・ 15 名中、5 名欠席。
<p>7. 議事 課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし
<p>8. 協議 課 長 長谷部</p> <p>課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 全国学力・学習状況調査の広報について 資料 2 ・ 10/7 町内学校教務主任会で全国学力・学習状況調査の分析結果、実態、今後の取り組みについて協議及び情報交換実施。各校の課題等を照らし合わせ、教育委員会事務局で広報原案を作成した。 ・ 各校へ修正依頼し集約して案を作成した後、11 月行政連絡会議で校長に見ていただいた。 ・ 資料の図 AB、写真については後方ページに掲載、またレイアウトは広報担当に任せている。 ・ 今年度は課題の多い調査結果となったが、教務主任会で協議し、課題は課題として現状をしっかりと伝えていかなくてはならないという結果だった。 ・ 「今後の取り組み」 各校とも書く力の育成が課題である。各教科に対する関心は高いが、数値に表れていないので、指導者側の授業改善に課題があるという共通理解をした。 ・ 家庭と連携しながら家庭学習を強化する取り組みを今後も進めていく。 ・ 広報ひの 11 月 20 日号に掲載。 ・ 2) 働き方改革について 資料 3 <p>国の指針として月 45 時間、年間 360 時間の時間外勤務が示されており、町としても同様に目指す。</p> <p>黒坂小 6、7 月 40 時間超過 1 名 4 月 30 時間以上 若干 根雨小 4 月 80 時間近く、9 月 60 時間近い 1 名 5、6、7、9 月 60 時間前後 1 名 日野中 5、7、9 月 100 時間以上 ほぼ毎月 80 時間以上 1 名</p>

	<p>S先生は昨年度も時間外が多く、校長と共に指導したが改善されていない。</p> <p>部活動指導により土日の時間外が増える傾向がある。</p> <p>小学校と比較すると中学校の方が時間外勤務が多い。</p> <p>時間外が多い人は常に多く、少ない人はずっと少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校単位での分析等 <ul style="list-style-type: none"> 前年度との比較 黒坂小は減、根雨小は増。 時間数増減の主な理由 取り組み <ul style="list-style-type: none"> 黒坂小 各種会議の精選と効率化、終了時間の設定 根雨小 新卒初任者の転勤による時間外増 日野中 校外での部活動指導時間の減 業務支援システム導入による業務軽減 今回の調査を受け、各学校での今後の取り組み（予定） <ul style="list-style-type: none"> 黒坂小 学期末の時間外勤務の軽減 根雨小 学校業務の効率化 <ul style="list-style-type: none"> 校内研修を行い業務の見直しを図る 県の指導により、校内研修を実施しグループワークを行い具体的に軽減できる業務を確認した 日野中 業務の精選と適正な校務分掌配置 <p>時間外勤務が多くなることによる先生の体調不良が心配。</p> <p>児童生徒への影響も考えて勤務してほしい。</p> <p>通勤途上の事故、睡眠不足なども懸念される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は世界で一番教員の時間外勤務が多いという統計が出ている。国の施策としてスクールサポーターを配置したり、部活外部指導員を増員したりしているが、県も競技団体やPTAの協力を得て教員の負担を軽減しようとしている。保護者の理解を得て実施しないと先生も大変なので、保護者に向けても啓蒙していく必要がある。 国のガイドライン、月45時間は中学校では難しいと思う。教職員の休職が多い原因となっているのではないかな。 働きやすい職場環境も大事なことだと感じている。 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動方針については昨年教育委員会が策定し、週休2日、1日の上限時間などについて示し、保護者にも通知している。以前よりは理解が得られていると思う。 ・全県的に取り組んで横並びにしないと、温度差があってはならない。 ・市町村で違いがあると不信につながるので、県として指導されるようお願いしている。 ・月45時間以内の時間外は実現できそうな数値なのか。
--	---

課 長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校はできると思う。 1日2時間以内とすれば、月45時間以内となるはずだが、午後7時まで勤務することがどうか。
景 山 課 長	<ul style="list-style-type: none"> ・月100時間以上の先生はどのような勤務なのか。 ・休日というより毎日午後10時、11時まで勤務している状態。他の先生と仕事を分担しながらということは言っているのだが、なかなか難しい。
景 山 飯 田 課 長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に体調を崩されたと聞いたが、精神的な面も心配。 ・本人は負担に感じているか。 ・負担には感じず、むしろ充実していると感じている。だが体調を崩さないような働き方をしてほしい。
景 山	<ul style="list-style-type: none"> ・プライベートと仕事の境目がなくなっているのも原因かと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・働きかけはしているが、リズムが決まってしまうため変えることが難しいかと思う。 学校や環境が変われば、それがきっかけとなるかもしれない。
景 山 課 長	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ小学校なのに、黒坂小と根雨小が違うのは何故か。 ・児童数の差は影響すると思う。 黒坂小の先生は複式学級の担任で、一番時間外が多い。 根雨小の今年転任された教頭先生、新任の先生は時間外が多い。 ・仕事の持ち帰りができないため、学校での勤務時間が多くなる。
景 山 課 長 松 田 教育長 頭 本 教育長 課 長 頭 本 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・超えたら危ないラインは。 ・100時間を超えたら医療機関の受診を促すことになっている。 ・時間外勤務手当はあるのか。 ・ない。調整手当が支給されている。 ・実際、数字をあげていない先生もあるのではないか。 ・自己申告なのであり得るかもしれない。 ・パソコンに使用できるUSBが制限されている市町村もある。 ・紛失した事例があるため、持ち帰りは禁止している。 ・時間外勤務の内容がどうかも大事。教員が魅力的な職業でなくなっていく。
飯 田 課 長	<ul style="list-style-type: none"> ・このデータは保護者に知らせているか。 ・学校からの数値をグラフ化して学校へ通知している。 学校から保護者へはたぶん周知していないと思う。 ・時間外勤務についての協議を教員同士でしていないので、その機会をとって互いに考えることが必要。
教育長 頭 本	<ul style="list-style-type: none"> ・意識改革を図っていかなくてはならない。 ・高校でもノー残業デーを設けたりして、効率よく仕事をして早く帰ろうということも実施していた。

<p>課 長</p> <p>頭 本</p> <p>教育長</p> <p>課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁は水曜日がノー残業デー。 早く帰って地域活動に参加したり、家庭のことを体感すると意識も変わるのではないか。 ・ 米子市は 12/26 以降は対外とのやり取りをしないことを、今年から設定している。 ・ 年休消化ができないだろうし、長期休業中に取得することもなかなか難しいのではないか。 ・ 長期休業中も研修があって出ることとなり、それを削減しないと休暇も取得できないのが現状。 <p>3) 令和元年度下期保育所・学校訪問について 何か意見等あればお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。 ・ 4) その他 なし
<p>9. その他 課 長</p> <p>景 山</p> <p>教育長</p> <p>課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村教育委員会研究協議会に参加されて、気付いたことや感想を述べていただきたい。 ・ 分科会で宮崎市と境港市の発表があり、特に境港市の英語教育がすごかった。目的がしっかりしている。 地域的に外国との交流が盛んで、小学校からきちんと戦略的に指導がなされている。 児童がしゃべっている英語もレベルが高い。 ・ 小学校の時から勉強している意識より、楽しんでいる意識が高い。英語が好きな児童が 90%以上で、中学校でも変わらず、話すことの平均点が高い。英語でコミュニケーションをとる苦手意識はなく、小さい時からの取り組みの結果。 大人がちゃんと時間やお金をかけて取り組めば、子どもは答えてくれる。それが境港でできているので、小さい学校だからこそ結果を出せるのではないか。 特に変わったことをしているわけではなく、しっかりとした方針で積み上げている。 ・ コミュニケーションをとる機会が容易である状況がある。 ・ 若桜学園は英語教育に特化している。 <p>次回教育委員会定例会について 令和元年 12 月 4 日(水) 午前 9 時 30 分開会 第 1 会議室 (10:30 委員会終了)</p>

令和元年 11 月 8 日

日野町教育委員会